

特集

他団体と連携するクラブ

NPO法人ただみコミュニティクラブ ＜福島県南会津郡只見町＞

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、地域社会からの信頼性を確保し、地域の各種機関・団体との相互補助の関係を築くことが必要となってきます。

そこで今回は、地域の各種団体と連携し、活動を行っている総合型クラブを紹介します。



1. 外部の専門家が入る事業にクラブスタッフ全員が関わり、他機関との連携事業のあり方を学ぶ
2. 各機関の方々、保護者、地域をつなぎながら事業を進め、徐々に点が線となり面に
3. 幼児対象の事業に取り組み、未来を担う子どもたちの成長と支援に一つの方向性が示される

1 クラブ概要

クラブ設立の背景には、「マイナスイメージの強い豪雪地帯においても、楽しく雪上スポーツで地域おこしができないだろうか」という思いがありました。地域の有志（自営業・農業従事者・運送会社・公務員・団体職員等15名）で平成18年に設立準備委員会を設置し、平成20年2月に総合型地域スポーツクラブとして設立し、平成24年8月には法人格を取得しました。

クラブ理念は、広く一般地域住民を対象として、文化、スポーツ、レクリエーションを通して、スポーツの振興、地域住民の健康増進、地域のコミュニティ構築、豊かな高齢者社会の創造及び青少年の健全育成に関わる事業を展開し、健康で豊かな生活を送ることができる社会の実現に寄与することを目的としています。現在は、定期スポーツ教室の実施以外に、高齢者健康維持教室、学童期の居場所づくり連携事業、幼児の体力向上事業支援、スポーツ交流型観光推進、助成金による地域資源を生かしたスポーツの推進に力を入れて活動しています。特に少子高齢化の町が抱える地域の課題解決の一助となるよう地域のコミュニティを大切にし、健康経営の分野にも取り組みを広げています。

過疎化が進み高齢化率が45%の只見町においては、持続可能な地域社会基盤の構築と、その担い手や支え手となる人づくりとその確保が喫緊の課題になっています。

これまでは、地域内の団体および関連団体を中心に連携し、“スポーツ振興”を通じて各種事業を行ってきましたが、平成28年度から地方創生事業のプロジェクトにメンバーとして参画する機会を得たことで、専門家による支援や事業手法を学びながら一緒に実務も担い、公共政策とまちづくりというより幅広い視点で地域のあり方を考え、その中でクラブが担っていく役割や今後の事業方針を検討するようになりました。

地方創生のプロジェクトでは、クラブのこれまでの活動実績やノウハウを生かし、地域の人づくりと地域内のつながりをつくるコア拠点・ハブとなる人材としての役割を担っています。これにより、連携する機関・団体は、地域内にとどまらず県外にも拡大しています。

「地方創生事業のプロジェクト」

【事業名】ふるさとの未来を託せる子供を育てる環境づくり事業

【概 要】

只見町では、「ひと・まち・しごと」の創生と好循環において、若い世代も含め、自らの希望に添った地方生活を応援する環境づくりを進めています。その取り組みの一環として、官民連携し、町内資源を活用し町の魅力づくりに資する子育て機能の充実強化策として、国内初のICTを活用した子どもたちの発育・発達支援事業を展開しております。また、子育て家族の交流や子育て文化の継承を兼ねた拠点としてトレーラーハウスを活用した”ママカフェ”を整備し、ふるさとの未来を託せる子供を育てる環境づくり事業に取り組んでいます。

幼児の体力向上を目指す連携事業

ただみ健やか発育発達支援事業～さんさんキッズプロジェクト～

【事業内容】

主として町内3保育所に通う園児3歳から5歳を対象として活動量のデータを測定

【クラブ側の事業への関わり】

- 保育士への運動あそびに関する情報伝達やOJTのサポート
- 園児自らが楽しく体を動かす運動あそびを習慣づけすることによる体力向上支援サポート
- 子育てに関わる情報を保護者に伝達し、子育て講演会や運動あそびの実践教室を支援
- 各保育所の活動量データの収集と調整

コンサルティング会社が事業受託代表 町と協力し6団体で連携

平成27年度から事業準備を開始し、平成28年度から地方創生事業「ふるさとの未来を託せる子供を育てる環境づくり」の一環として、子どもたちの生きる力を育てるための支援、それを支える周りの人・環境づくりの取り組みを行っています。事業受託代表企業であるコンサルティング会社の下、クラブを含め、全部で6つの企業・団体・研究機関がアライアンスを組み、地域づくりの総合事業の一環として、町とも協力し事業の方向性を確認しながら取り組んでいます。

データ分析で現状を可視化→年々確実な成果が生まれる

現状の可視化として、幼児期の段階から活動量、睡眠、運動能力、生活習慣の状況など様々な視点でデータを取得し分析しながら、客観的評価のフィードバックやそれに合わせて保育士・教員等の専門職、保護者、地域住民への情報提供と教育機会を持つなど複合的な支援基盤の構築を進めてきました。この取り組みは1年1年確実な成果となって現れてきており、子どもたちの体力・運動能力の変化だけにとどまらず、自ら考え主体的に動くといった行動につながり、また子どもたちの成長を支える教育関係者、保護者、地域住民へとその広がりを見せています。

財源は町と国の予算から

この事業は町の予算と国の公募型の予算を合わせて財源としています。公募申請については企画書作成のための立案や事業実施の流れや取り組み方についても外部の機関に支援していただいています。他団体と連携して事業を進める場合のクラブが担うべき(担える)役割についてもプロジェクトメンバーとして確認しながら進めています。

事業で多くの学び スタッフの質が向上し意識改革も

このプロジェクトにおいては、クラブスタッフが全員で関わっています。外部の専門家(健康経営コンサルタント・民間スポーツクラブ・SE・研究機関・総合情報サービス企業)が入って取り組むこの事業にクラブスタッフが関わることで、最新の知見や他機関との連携事業のあり方を学ぶよい教育機会ともなり、スタッフの質の向上や意識変革にもつながっています。大切にしていることは、新しいことに挑戦する気持ちを持ち続けることです。事業に主体的に取り組むことを実践していくことで多くの学びを得ています。各機関、事業に関わる方々、保護者、地域をつなぎながら事業を進めている3年目、徐々に点が線となり面となりはじめています。成果が見える嬉しさと新たに見える課題にどう取り組むかを日々考えることも、プロジェクトの一員となってみると楽しみの一つに変わってしまうから不思議です。これこそが他団体との連携で得ることができる価値ではないでしょうか。町と同じ方向性を共有しながら、企業や関係機関と連携して事業を進めるのは、クラブとしても大きな自信と実績となっています。

4

保護者の関心高まり、事業が発展

他団体との横のつながりを重視 クラブは地域のつなぎ役

クラブの役割は、事業を実施していく中においても、地域のつなぎ役であることです。各々の機関との横のつながりを大切にしながら進めていることが事業の強みとなっていますし、連携することによって得られる専門性や情報の正確性、サポート体制や多岐にわたるネットワーク、将来に向けての効果やビジョンの広がりを考えても、子どもたちの成長を支える事業として続けていくことが大切であると考えます。この事業に先駆けて、教育委員会との連携事業として学童期の放課後の居場所づくり事業『子育てひろば』を6年間実施してきたことを考えると、幼児を対象としたこの事業の取り組みは、わが町として未来を担う子どもたちの成長と子育て支援に一つの方向性が示されました。

毎年、この事業の中で子どもたちに関する生活習慣アンケート調査を保護者に実施し、この事業に対する意見や思いが自由記述欄に綴られるケースが年々増加しています。この事業に期待する保護者の関心の高さは事業の理解と協力にもつながっていますし、施策として取り組む町の子どもたちを取り巻く環境への理解が、この事業の発展に結びついていることを実感しています。

連携団体からの声「地域団体の『やる気』と『思い』が真の成果につながる」

「われわれ外部の専門家が入って支援を行うことは可能ですが、コアになる存在として欠かせないのは、やはり地元の地域団体の『やる気』と『思い』です。私たちは最初の取り組みのきっかけづくりの方向性を示し、動き出すための最初の支援は行えますが、取り組みが地域に根付き真の成果につながっていくには、そこにいる地元の方が『わがこと』として捉え、主体的に考え行動することが大事です。地域の顔の見える存在として活動してきたクラブのこれまでの実績やノウハウといった土台があってこそ、これらの事業が展開できていると感じています」

5 クラブ側の役割は事業の調整とフォローが中心

クラブとしては、初めての企業や各機関との連携事業でしたので、企画・立案から実践までのスピードの速さに驚きました。事業の進め方についても学ぶところが多く、新鮮な気持ちで取り組んでいます。事業の細かい調整やフォローに回ることが多いですが、毎年子どもたちの成長や地域の子育て意識が変わっていることを実感することが多く、この事業の意義深さを感じています。

6 永続的なまちづくりに向け、保ち続けたい「三つの目」

少子高齢化が加速する地域において、人・分野・世代・地域を超えて、「人」「モノ」「お金」「思い」が循環し、相互に支える・支えられる関係づくりが不可欠になってきます。

中でも、まちづくりの基本となる人づくりは重要であり、これを中核に据えて事業を行っているクラブの意義や役割も大きいと感じています。居心地が良く未来に続く永続的なまちづくりのあり方をともに考え取り組むメンバーの一員として、「三つの目」が大切と考えます。それは、広い視野で物事全体を見つめていく「鳥の目」と、現状をきっちりと把握し足元を見つめ直す「虫の目」、今後どのような展開になりそうなのかを予測し時代の流れや社会の変化を捉え対応を検討する「魚の目」です。一つずつ丁寧に相互支援の関係を生かしながら今後も取り組んでいきたいと思います。

(NPO法人ただみコミュニティクラブ クラブマネジャー 平山真恵美)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成20年2月29日

所在地 福島県南会津郡只見町

運 営 会員数290名(平成30年4月現在)、予算規模2,000万円(平成30年度)

有給職員 2名

特 徴 少子高齢化の町で地域資源を活用したスポーツを通じて地域の活性化に取り組んでいます。町と連携し、多岐にわたる職種の方々、団体、各機関の協力を得ることで新たな視点も生まれチャレンジし続けることが活動の継続につながっています

連絡先 〒968-0601 福島県南会津郡只見町小林字下前田412番地

電話番号 0241-86-2671 FAX 0241-86-2587

URL <http://tadami-cc.com/>

E-Mail info@tadami.info

